

「日本教科内容学会」設立理念

子どもの学力の育成は、各教科の教科内容の学習によって成立する。従って、学力の評価の観点から見たときにも各教科の教科内容の在り方や設定の仕方が極めて重要となり、また、それを担う教員が各教科の教科内容をどのように自分のものになっているかが問われる。

教員養成大学・学部において教科内容を直接的に担う専門分野は、教科専門である。ところが、近年この教員養成における教科専門の教育内容が理学部や文学部の内容と同じで、そのために学校教育の教育実践との乖離があり、子ども達の発達を想定したものになっていないという指摘がある。そして、この課題を解決するには、教員養成大学・学部が独立した専門分野を築き、教員養成大学・学部独自の教科専門の創出が必要であるという。それは、教科専門の各教科の教科内容を学校教育の教育実践に生き、子どもの学力育成と発達を助成するものとして捉え直し「教科内容学」として創出することである。

学問研究には、研究対象と研究方法が確定されていなければならない。「教科内容学」の研究は、研究の対象を教員養成及び学校教育における各教科の教科内容とし、それらを教科の専門の立場と教育現場の授業実践の立場から捉え、「教科内容学」として体系性を創出することを目的としている。

教員養成大学・学部の教科専門や諸科学の専門分野は、専門学部と同様に個別学問や諸科学等の研究であるが、単にそれだけではなく、教科専門の教科内容を教育実践との関連で研究することが重要である。特に後者の研究には、学問や諸科学等の研究成果の内容が子どもの認識と成長にどのように寄与するかという教育の観点からその内容や価値を捉え、教科内容を創出することが必要となる。

学会は、以上のような設立理念によってスタートしたばかりである。大学教員、教育現場教員、教育委員会等の学会会員の研究によって、教員養成の教科専門の在り方や教育現場の教科内容や教材開発への貢献が期待される。